

BERCニュース

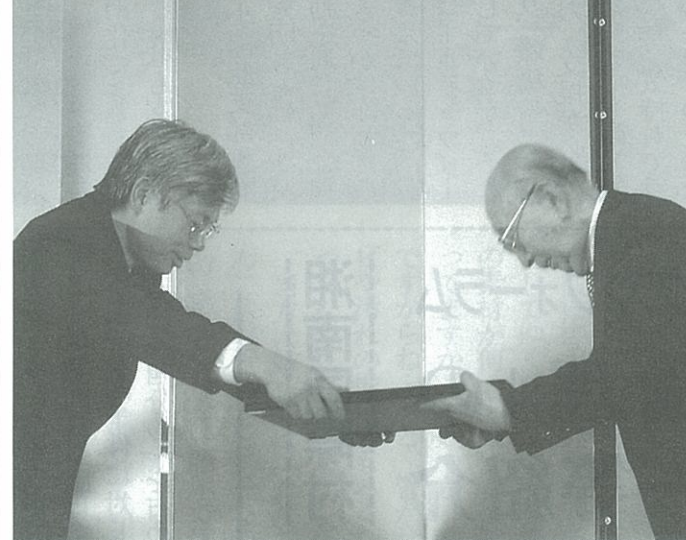
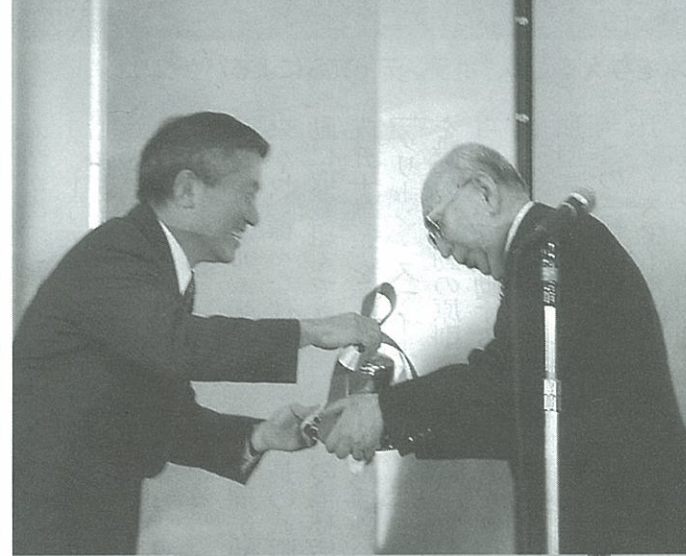
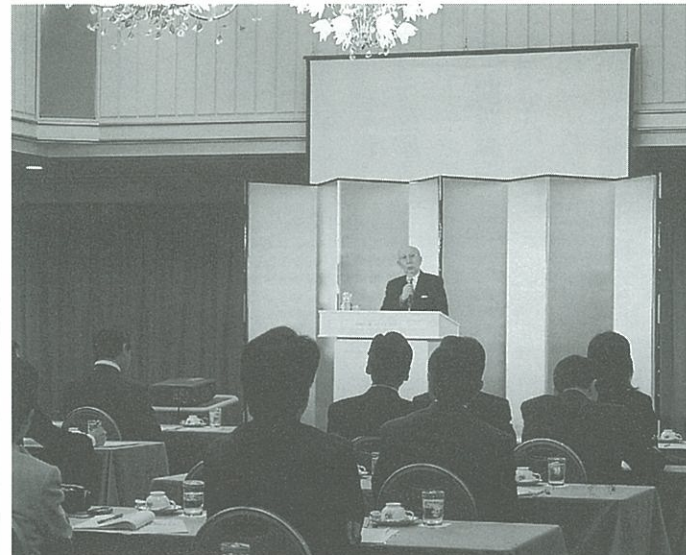
「最優秀」は富士ゼロックス

「経営倫理実践努力賞」決まる

東電、NECにリカバリー賞(新設)

「経営倫理実践努力賞」の発表と、表彰式が二〇〇四年十一月五日、東京プリンスホテルで開かれた。経営倫理実践研究センター(BERC)主催、日本経済団体連合会後援で、二〇〇二年に発足、二回目。

- ◇第2回 経営倫理実践努力賞
▷ 経営倫理最優秀努力賞 富士ゼロックス
▷ 経営倫理優秀努力賞 資生堂、松下電器産業
▷ リカバリー特別賞 東京電力、日本電気
▷ 共生特別賞 損害保険ジャパン、横河電機



「最優秀努力賞」には、富士ゼロックスが選ばれ、つづいて「優秀努力賞」(二社)が決まったが、今回から新たに特別賞として「リカバリー賞」(二社)と「共生賞」(二社)が新設され、注目を集めた。受賞の七社は上表の通り。経営倫理に実績、評価があり、社内定着化を目指

して活動している企業を対象に表彰している。このためBERC入会后二年以上... 特別審査会で、公正、厳密な調査が行われ、七社の受賞が決定した。今回から新設されたリカバリー賞は、過去に生産設備での事故や企業不祥事を起こしているものの、その後、改革に取り組む、実践努力した企業を対象。

三菱地所と松下電器が発表 定着化セミナー

当日は、経営倫理定着化実践セミナーが開催され、その中で発表、授賞された。表彰式では、最優秀努力賞を受けた富士ゼロックスの吉田晴彦専務執行役員ら七人が出席、水谷会長から賞状とトロフィーのベルを受け取った。特に新設されたリカバリー特別賞の東京電力、日本電気の表彰では、会場からひとときわ力強

なぜ企業人は法や社会のルールをあっさり破ってしまふのか。今に始まったことではないが、UFI銀行の検査妨害事件やカネボウの不正経理疑惑などを見ると、不思議である。どうもその根

背景には、保身や出世などの私利を図る計算があつたのだろうか、いざにして銀行内での序列に関わるものだ。損得勘定が明確な金銭的利得には直結しない。総会騒ぎ事件などの多くの企

ちの動機はまだわからない。私腹を肥やしたかどうかは明らかではないが、責任を追及される可能性が高い帆足隆元会長兼社長が日経ビジネス二〇〇四年十一月八日号の「敗軍の将、兵を語る」欄

「当時は「粉飾」とは言っていなかった。そんなのは低稼働ですと、過去からずっと変な仕組みがあつた」と内幕を暴露。先輩経営者から負の遺産を引き継いで「会社存続のために信念を賭してやっ

つてやったのに恩知らずというテ社会の人間関係」が支配する企業では、往々にして非常識がまかり通る。社会に背を向けても、身内を守り帰属する組織の存続を図って、利益を得ようとする。

UFI銀行の場合も、逮捕された三人は旧三和銀行の出身者で、事件を起こした時の頭取は同じ三和出身の寺西正司氏だった。早川元常務は大阪府と付き合っというわけである。「まさか裏切られるとは思いませんでした」と述べている。

ニュース インサイド

法踏み外した組織防衛 問われる個人の倫理観

と事件 ウネボウとUFJ 組織防衛 問われる個人の倫理観

金融検査をごまかすために資料の隠ぺいを指示したとして銀行法違反の容疑でUFI銀行の三人の役員が逮捕された。岡崎和美元副頭取、早川元常務執行役員、稲葉誠之元執行役員は直接的には組織防衛を目的に法律を踏み外したものとみられる。

業犯罪と似ている。カネボウは過去の経営者による不正経理や裏金作りなどの社内調査を発表し、刑事責任を問う方針を表明している。関わった経営者た

で興味深い話をしていく。長い間の経営不振で借金が多まり、在庫の処理に困って、「本社と販社で物品を回遊させる」「低稼働」でずっとやってきた」とい

てきた」と弁明している。帆足氏は〇四年三月に引責辞任した時、こっそり有給の「名誉顧問」に就いて会社に残留しようとしたり、やはり実態を隠してでも現状を維持した

捕された三人は旧三和銀行の出身者で、事件を起こした時の頭取は同じ三和出身の寺西正司氏だった。早川元常務は大阪府と付き合っというわけである。「まさか裏切られるとは思いませんでした」と述べている。

不正を正すのに、裏切りも何もない。しか社会人類学者の中根千枝氏という「タ

ある。「銀行を守れ」「頭取を守れ」は彼らにとって、守る価値があつたのだ。上司部下、先輩後輩、あるいは親分子分の義理人情の関係がすべてに優先する企業風土に問題がある。これを改めて個人の倫理観を活かさなければ、抜本的な改善は難しいだろう。日本経済新聞・論説副主幹 森 一夫

BERC新入会員社の紹介

- ①企業名 ②資本金 ③代表取締役 ④経営倫理担当最高責任者 ⑤従業員数
▽①三菱化学 ②1450・ 86億円 ③富澤龍一 ④山田洋輔(代表取締役専務執行役員・コンプライアンス推進統括執行役員) ⑤5285名
(04年末現在 計81社)

無くならない労災隠し

公共「指定外し」がこわい 事業書類送検されたゼネコンも

毎日新聞大阪本社の社会部記者が二〇〇〇年十一月十一日から企業の労災隠しについてのキャンペーン記事を連載し、それが〇四年十一月に「なくせ！ 労災隠し」(アットワークス刊 五百円プラス税金)という本になった。この本によると十年間に五十八万件の

労災隠しはこうした健康保険の過去十年分のレポート(診療報酬明細書)三億枚について社会保険庁が調べた。こうした労災隠しの多い業界は建設業界である、建設業界ではこうした労災事故があると公共事業の入札に支障が出るということ、で大手のゼネコン(総合建設業者)が下請け、孫請けに指示して隠しているケースが多い。

〇三年十一月に東京品川労働基準監督署が大手ゼネコン鹿島など四法人と同社の現場所長(当時)ら

計六人を労働安全衛生法違反容疑で東京地検に書類送検をした。労災隠しで大手ゼネコンが書類送検されたのは極めて異例であった。

同労基署の調べによると東京都心と臨海副都心を結びんかい線、品川シーサイド駅の建設工事建設で〇一年九月に鹿島の下請けだった白岩工業の従業員が作業中にくぎの破片が眼球を傷つけて三日間休業した。これを知らぬが報告をしなかった。

この現場ではこのほかに

二件の事故がありながら孫請けの会社が労災申請をしなかった。このほか九九年六月にハザマが茨城県ひたちなか市の工事で下請け会社の工事で労災事故を隠しこの工事とは無関係であるとウソの報告書を労基署に出した。このためひたちなか市はハザマを一ヶ月、茨城県は二ヶ月の指名停止処分にした。

このように建設業界では労災隠しも多いが、厚生労働省の調査によると労災事故そのものも多い。〇二年では労災による死去事故が千二百件あるうち建設業は四百六十七件と一番多い。製造業全体で二百四十三件で、これと比べてみてもわかる。こうした死亡事故でなく、休業四日以上は全体が十二万四千件に対して三万件と四分の一を占めている。

社会貢献活動の現場から

⑦

地球の砂漠化現象が、問題になっている。そして、地球に緑を取り戻そうと多勢の人たちがこのテーマに取り組んでいる。富士フイルム労働組合では、内モンゴルの沙漠で七年間、緑化活動を続けている。

内モンゴル・ホルチン。ここは「砂漠」ではなく「沙漠」である。少し掘れば、下の地面は水分を含んでい

富士フイルム労働組合

富土フイルム労働組合

る。人災(過開墾・過放牧)により砂漠化している。緑化活動を行うようになったのは、富士フイルム労働組合結成五十周年の一九七七年からだ。活動は、主に植林、剪定(せんてい)など。ホルチン地帯の緯度四十度付近は、気流の影響で乾燥帯となっており、元来、生態系が弱い弱な土地という。



沙漠に植えた苗木に水を与えるため、ボランティアらによるバケツリレー

植林するのは、季節にもよるが、障子松かポプラ。ポプラの場合、約七十センチの穴を掘り、苗木を植え、その後、バケツリレー

ん芽が出てしまう習性があり、十分ケアしなければならぬ。この活動はNGO「緑化ネットワーク」と共同で行っている。

富士フイルム労働組合は、従来から、様々な社会貢献活動に取り組んできたが、結成五十周年を機に新たに「グリーン・スマイル基金」を設立。活動の原則に①自らの意思で行動する(自主性)②実際に汗を流す(参加型)の二つを掲げた。

この「緑の協力隊」(グリーン・スマイル隊)は年一回催行。今年で七回目。一日約十数人の組合員が参加、第五回からは、リピーターも出ている。リピーターたちは過去に植林した土地を再訪し、木々の育成具合を自ら確認できる。その感動は、ひとしおだという。

場の協力も不可欠。参加に際しては、ストック有給を優先的に消化できるシステムがあり、会社も支援している。

同労働組小田原支部書記長の武隈秀明さんは「沙漠の植林活動を通じて社会貢献活動のきっかけ作りになれば、と考えている。活動は、毎年ゴールデンウィークを利用していくが、それでもやはり、職場の上司や仲間の協力・支援が必要。活動は、あくまでも観光気分のような軽い気持ちで参加できるようなものではない。インフラ設備の整っていない土地で、村が日々砂漠化していく恐怖と戦っている現状を思い知らされる」と話している。(陶)

〈富士フイルム労働組合〉
 △設立 1947年△中央執行委員長 内海春雄
 △組合員数 8042人△日本化学エネルギー産業労働組合連合会(JEC連合)加盟

湘南国際村 グレート・ブックス・フォーラム 「生命倫理」の セミナー等紹介

湘南国際村センター(神奈川県葉山)で、二〇〇四年十二月十二日、「グレート・ブックス・フォーラム」が開かれた。



は、アメリカのM・J・アードラー博士によるプロジェクトで、古典読書と対話を重視する人材育成プログラム。湘南国際村でのフォーラムは、一九九一年にスタート、毎年一回開かれ今回は六回目。

当日は、木田元・中央大学名誉教授が特別講演、梅田誠・元横浜市立大学学長らがパネリストとして参加した。

梅田氏からは、横浜市中央図書館で、「生命倫理」をテーマとしたセミナーを開催した状況が報告された。会場には教育関係者、研究者、市民らが参加していた。

湘南国際村で開かれたグレート・ブックス・フォーラム

建設業は高いところで仕事をしたり、トンネル、地下などが作業現場になっているので製造業などに比べると事故が多くなる。きちんと労災を申請しているのも多いが隠しているのも多い。ゼネコンの工事では大手の社員が四、五人で、その下に下請け、孫請けがあり、これらの作業員が多いときには千人から二千人働いている。そうした作業員が事故を起こした時には下

請けの監督が「労災にすな」と指示して病院で治療してしまう。外国人労働者が指を切断する事故があり、病院の先生は指をつけられるというのに、この費用を経営者が払わないということも切斷してしまったという悲劇も出ている。労災事故として正式に届け出なければいけなかった。

経済ジャーナリスト 阿部 和義

研究会訪問 倫理定着状況 の評価研究会

初の「二日合宿」活発に アンケートで定着化を把握

BERC「倫理定着状況の評価研究会」の「二日合宿」(終日かん詰め型の集中討議)が二〇〇四年十一月九日、南青山会館(東京)で開かれた。CSRの社内での浸透度を把握するため、どのような方法があるかを、探る先端的な研究会。今回、その中の一として「浸透度把握のためのアンケート」作成の「二日合宿」が開かれ、レポーターが訪問した。

同研究会には、四十四社が参加、幹事社(富士ゼロックス、東京電力、王子製紙、イオン、田辺製薬の5社)を中心に運営、松本邦明BERC専任講師がアドバイザーを勤めている。倫理定着化の測り方には「意識調査」「ヒアリング」

「アセスメント評価」などの手法が考えられるが、今回は「アンケート」方式を採用した。作業は参加メンバーを四つのグループに分け、一グループは約十人編成、グループ・ワークがやりやすいように工夫した。

参加メンバーは新入社員から部長、監査役などさまざま。各グループは、ボードに意見メモを張りつけたり、大型一覧表への書き込みなど、ミーティング・スタイルは多様だ。グループ内の討論では「その方式は、我社で既に採用したが、効果なかった」「定着化といっても、当社ではCSRへの理解がまだ全社に浸透していない。初歩的レベルで、お恥ずかしい」など、くだけた中にも活発な意見交換、



事例発表が続いた。既に半年以上、議論し合ってきたメンバーだけに、会社内だけでは、体験できない本音の交流もできている。

丸一日かけての白熱した議論の後、各グループより、討議内容の発表があった。

この「二日合宿」は、日常多忙な人、外泊しにくい女性、開催場所が遠方で参加しにくい人たちの事情を考慮して発案された。都心で朝から夕方まで、議論から、まとめまでのミーティングを集中的にこなした。同研究会は四月から毎月一回開催しており、七回目の今回

日本経営倫理学会・第十二回研究発表大会が、二〇〇四年十一月二十日、早稲田大学(東京・高田馬場)で開かれた。

今回の統一論題は「経営倫理とCSR」。A、B、C、Dの四会場に分かれ、

「経営倫理とCSR」の統一論題で開かれた日本経営倫理学会・第十二回研究発表大会。早稲田大学で

統一論題、自由論題あわせ合計二十三の研究発表があった。学会関係者を始め、企業からの参加者、研究者、学生らが多数集まり、終日、熱心な発表、討論があった。

統一論題(午前の部)では、四件発表があったが、学会CSR研究部推薦による資生堂・酒井剛、ベネッセコーポレーション・桜木君枝両氏による発表は、C

統一論題に比べ、自由論題への発表参加希望が例年増加傾向にあり、経営倫理

SRの企業実践活動の例題だけに、注目を集め、活発な質問が続いた。

自由論題(午後の部)は、発表本数が十九と多く、四会場に分かれて行われた。

発表者は大学教員、大学院生などの研究者のほか企業幹部、中小企業診断士など幅広いジャンルからの考察発言があった。

この部会は、CSRの今

「統一論題」**経営倫理とCSR** 第12回研究発表大会開く

日本経営倫理学会の活動

取組み事例の紹介

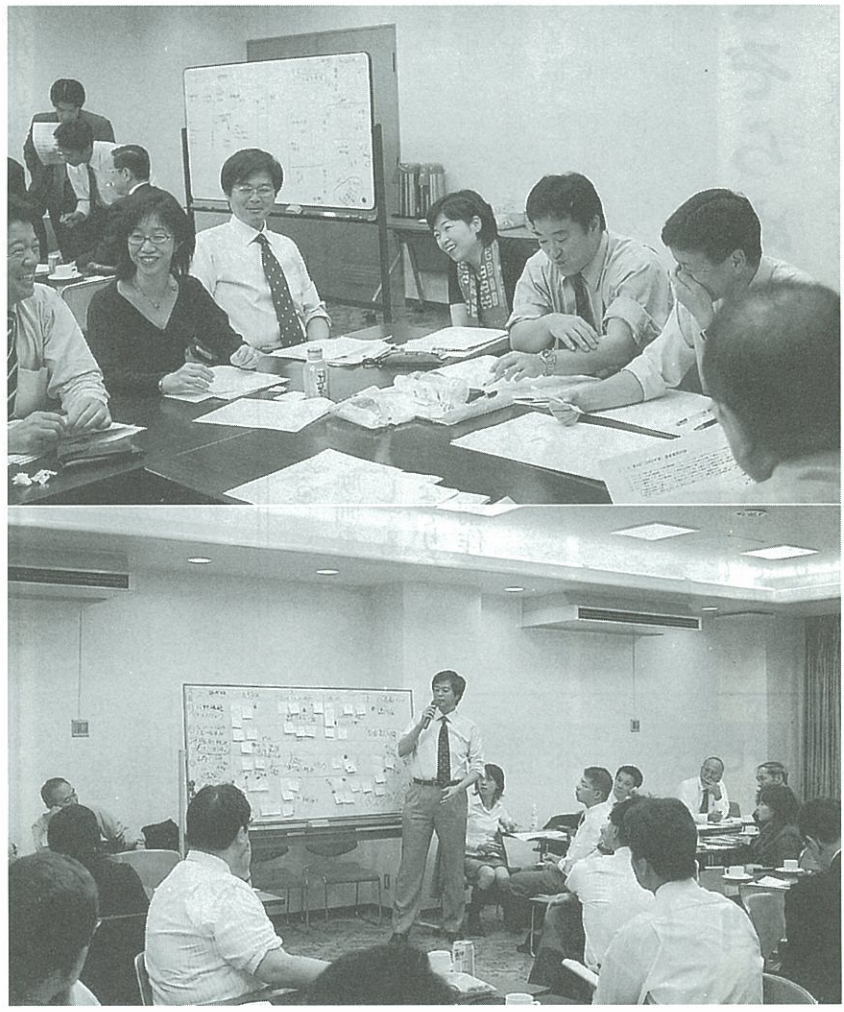
〈CSR研究部会〉

飲コミュニケーションも

研究部会の紹介

ISOへの取組みが決定し世界的レベルでCSR企業の社会的責任に対する関心が高まっている。

この部会は、CSRの今



時に、BERCにおけるスタンダードとして保存する。今回のアンケートの狙いとして「あくまでも企業倫理の定着度を測る先端的な試みだが、企業の中で実際に使えるものを目指したい」と松本専任講師は話している。

〇五年一月に最終検討を
終え、各社で整備すると同

「おじさん」なのがおじさんなのか「おっさん」なのかはつきりしない語尾で気になったが、もしかすると「おじさん」と言っているのかも知れないので聞き返すのはやめた。

三十歳前後の感じで、一緒に若い者を連れていたからシニア格なのだろう。言葉は時代と共に変わってゆ

研究会では、前半の1時間半で参加メンバー企業または研究者からの「CSR活動の考え方や取組み事例の紹介と質疑応答」、後半の1時間半で「CSR経営理念・行動憲章・行動基準」の策定(2005年2月に発表予定)を行う

参加費用は電力中央研究所を借りているので会場負担費用もないため、日本経営倫理学会の会員であれば無料。

なお、経営倫理実践研究センターのCSR研究部会アドバイザーである立教大学大学院の田中宏司教授も参加メンバーに加わっており、双方の情報交換も行っている。

部会長は駿河台大学経済学部教授・水尾順一氏。

蛍光ペン

マンションの排水管がかなり老朽化しているから取り替えたかどうかと、セー

ルスが来た。たしかに気になる部分があったので見てもらった。「以前に排水がうまきいかず、水があふれたことがあった」と、不具合の状況を説明すると、セー

ルスのお兄さんは「マジッスか?」という。

彼は排水管が経年で老朽化してゆく模様を「排水管の素材が何で出来てるか知ってますか。思いっきり鉄ですからね」と、管がサビや汚れの堆積でもろくなっている可能性を強調した。

当方に対しては「おじさん」なのか「おっさん」なのかはつきりしない語尾で気になったが、もしかすると「おじさん」と言っているのかも知れないので聞き返すのはやめた。

三十歳前後の感じで、一緒に若い者を連れていたからシニア格なのだろう。言葉は時代と共に変わってゆ

研究会では、前半の1時間半で参加メンバー企業または研究者からの「CSR活動の考え方や取組み事例の紹介と質疑応答」、後半の1時間半で「CSR経営理念・行動憲章・行動基準」の策定(2005年2月に発表予定)を行う

参加費用は電力中央研究所を借りているので会場負担費用もないため、日本経営倫理学会の会員であれば無料。

なお、経営倫理実践研究センターのCSR研究部会アドバイザーである立教大学大学院の田中宏司教授も参加メンバーに加わっており、双方の情報交換も行っている。

部会長は駿河台大学経済学部教授・水尾順一氏。

企業教育のあり方 社会が求めている 常識を教える

くものどとは分かっているが、比較的保守的なビジネスの世界でこんな言葉が当たり前のように使われると、なぜなのかと考えてしまふ。少なくともお客に不快感を持たせるようなもの言いは、ビジネスの世界では良くないのだから、このケースは彼の言い方が適切

でも、入社して二、三ヶ月で言葉も振舞もピカピカの社会人に変身してゆく。

企業の教育能力の高さは感心するほどで、家庭や学校が手上げにした部分までもきちんとしつけをするのだから、頼もしい。企業は言葉づかいや人と接する時のマナーを教えるだけではなく、その会社の常識も教えてゆく。ちかごろ新聞ににぎわしている会社の不祥事例を見ると、常識極まりないことが、社内でもまかり通っていたことが分かる。教えていた常識の内容がずれていたのだ。一部でしか通用しない自分勝手な常識を教えるのではなく、社会が求めているまさに常識が必要なのだ。(朗)

経営倫理学は実践学である以上、日本経営倫理学会の創立に当たって、何よりも重要なものは学会のメンバー構成である。学者・研究者が大多数の会員ではなく、学者・研究者と企業・団体における実務

回顧随想 <7> ライフ・ワークとしての経営倫理 BERC会長 水谷雅一

の勧誘を薦めることが出来た。両者の間での相互の情報交換や共同研究は双方にプラスすることが多く、その後の学会活動の継続的な活性化に資しているように思われる。次に重要な問題は、経営倫理学の研究対象領域が、極めて広く、多種多様なテーマが含まれているだけに、これへの適切な対応のための体制を整えることである。学会創立(一九九三年)の翌年三月に倫理綱領研究部会(高橋浩夫部会長)と理念哲学研究部会(福留民夫部会長)を、また、その一年後には企業行動研究部会(裕宗夫部会長)と監査研究部会(島村昌孝部会長)を夫々発足させることが出来たので、各学会員

不退転の決意で学会運営

が関心と興味のあるテーマの研究部会に加入して同好の士が研鑽を深める体制を築くことが出来た。因みに、その後、実証調査研究部会(中野千秋部会長)、ジェンダー研究部会(林陽子部会長)並びにCSR研究部会(水尾順一部会長)が加わり、また、倫理綱領研究部会をベースにステークホルダーマネジメント

いまだきビジネスマンは… 当世勤人氣質 <7>

赤瀬川 隼

五月のいわゆるゴールデンウィークなるものがなかった時代、一般サラリーマンにとって連休といえは、僕の記憶では正月の三ヶ日だけだった。学校はもちろん冬休みに入っているから父を含め一家が揃って一つ屋根の下で終日ゆつくり過ごせるのがこの時期だった。その様子を一番鮮明に、そして楽しく思い出せるのは小学生時代だ。昭和十年代

お年玉今昔

おいたおせち料理だった。こどもたちの楽しみの一つにお年玉があった。といっても文字通り「玉」すなわち硬貨一枚というのが普通だった。ある民俗学者の説によると、昔、新年を祝う餅は、丸い硬貨一枚という蔵が「質より量」の酒造りに走っていたのである。こうして風潮を潔しとせず、ひたすら旨い酒、いい酒を造ることにのみ情熱を傾けていたのが、「越の三梅」などに代表される地酒造りの蔵であった。これらの蔵では、増量目的のための糖類やアルコールの添加を行わなかったからだ。

編集後記

▽平成16年の最後を飾る行事として「経営倫理実践努力賞」(BERC主催)の発表・表彰があった。今回は第2回目で、富士ゼロックスが「最優秀賞」を受賞。第一回目の「最優秀」は資生堂で、両社に対する一般的な評価も高く、妥当な受賞と受け止められている。▽今回、注目を集めたのは「リカバリー特別賞」(共生特別賞)。両賞とも、今回から新設された。特に「リカバリー賞」は、過去に不祥事や不正行為をした企業が、その後のように立ち直っているか、にスポットを当てたユニークな表彰。▽今回は東京電力とNECが受賞。不祥事後の組織・意識改革への努力が評価された。経営倫理やコンプライアンスに反する企業が行跡を絶たないのは事実だが、これらの中から、経営刷新を目指すリカバリーショットが出てくることも大切だ。

シネマ談話室

映画監督・脚本家、新藤兼人、九十二歳。今なお現役最前線で、映画作り続けている。監督デビュー作「愛妻物



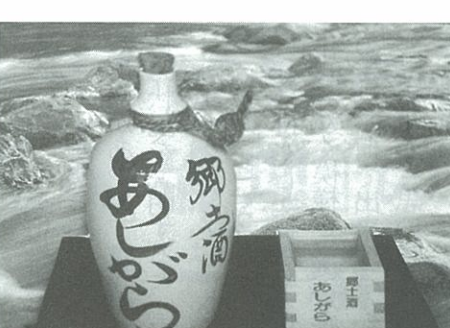
「まだまだ撮りたい映画、描きたいことがある」と話す新藤監督。近代映画協会。

過去をなぞらぬ92歳

協会の大重鎮として後進を育て、小説や自伝を書き、時に舞台の演出までこなす。なんとという活力!

「午後の遺言状」のテーマは「古い」だから、新藤監督は撮影前後、新聞や雑誌上で「古い」についてこんな発言をされていた。「人間は、ただ老いるの

楽しむ 日本酒
銘酒、必ずしも
名酒、にあらず



地酒には郷土の味わいが凝縮されている。「名酒」の場合も少なくない。

が新潟種に集まり、「雪中梅」「峰乃白梅」を加えた三銘柄が「越の三梅」と称されて、その後の地酒振興の牽引的役割を果たした。これらの酒が人気を博したのは、①二級酒であったにもかかわらず、②淡麗

う農家で、めったに口にしない珍らしい姿を見て、こどもも浮き浮きとうれい気分になるのだった。三ヶ日あるいは松の内のような過ごし方を可能にしたのが、餅と、大晦日までに母が姉たちにも手伝わして整えて

姿で残った。今なら五百円止まりである。僕らの頃も駄菓子屋や玩具店に走って鈴やめんこやビー玉あるいは少年雑誌などを買おうと残らなかった。しかしそれだけで充分な祝祭的気分には満たされた。まさに気はした。今でも本当は五百円玉一つでいいと思う。しかし今ではお年玉は、だれがいくらくれたかという、こどもの紙幣獲得競争の観がある。大人の社会がおちいっている経済優先主義にこどもが毒されている。正月の意味も薄れ、他の連休の風景とほとんど変わるところなく、親がこどもと一日中遊ぶこともめつたにない。(作家)